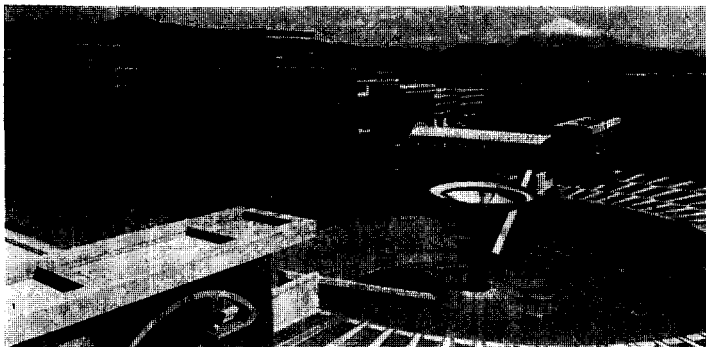


静岡県立大学

経営情報学部



静岡県立大学は既存の静岡薬科大学、女子大学および女子短期大学を改組拡充した一翼と、食品栄養科学部、国際関係学部、経営情報学部を他方の一翼とする4学部1短期大学部からなる新しい型の総合大学として1987年に創設された。大脳生理学の権威である内菌耕二学長以下、矢内原昇薬学部長、星猛食品科学部長、高橋徹国際関係学部長および林周二経営情報学部長が、写真に見られる日本平の北斜面にある200万個のレンガ作りのすばらしいキャンパスで、「日本一の大学にしよう」というスローガンのもとに研究教育活動を行なっている。キャンパスからは、目前に美しい富士山が広がり、隣接する県立美術館およびその近代彫刻プロムナード等、われわれが思索し新しいアイデアを創造するのに最適な環境を提供してくれる。また小生の趣味で言えば、近くの美保の松原で Wind-Surfing はできるし、最高にうまい寿司屋もあるし、手軽に乗馬まで楽しめる所である。

〔経営情報学部〕

OR学会員は、数理科学に関することは何でもご存知なスーパーマンの中村義作教授、整数論の小林みどり助教授、協力ゲームの末松俊明講師、ゲーム論で最近1年間米国ノースウェスタンの留学を終えた西原宏助手と、小生=Finance の浦谷規助教授である。

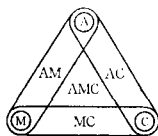
林周二学部長の経営情報カリキュラムの基本思想は、図1に示されるような、経営、数理、情報の3本柱を統合することにより、既存の経営学部が最近コンピュータ教育がさかんになったこともあり、それを越えた数理・情報に重心を据えたものに目標を定めている。

学生1学年100人中理科系が半分、文科系が半分で、

図1 経営情報学部の科目体系——3つのコア
経営情報学部の科目は、

- ①経営・会計 (Administration, Accounting)
- ②数理・モデル (Mathematics, Model-building)
- ③情報処理・情報通信 (Computer, Communication)

の3つのコアをベースとしています。低学年ではA, M, Cのそれぞれの基礎的な科目を学習し、高学年になるにつれ、2つの領域にまたがるAC, AMなどの科目を学習し、卒業研究で3つのコアにまたがる課題AMCを研究します。



これに対しては小林みどり氏が数学補習を1年時に行なっている。OR教育は残念ながら学部用には適当な新しい教科書がないので、刀根薫著「OR読本」を用いて、1年生後期と2年生前期に行なっている。OR学会員の方々が、キチンとした(編著でない統一のある)教科書を出して下さることを期待しているが、編著やOR屋以外の人のORの本しか最近は見かけないことは残念である。

計算機科学は、情報処理論、計算機言語I, II, IIIおよび、浦昭二慶大教授の人工知能の講義等がある。計算機言語I, IIは必修であり、現在はIではBASIC, IIではFORTRANを言語として利用している。内容はORを行なっているが、やはり刀根薫著「BASIC」「FORTRAN 77 基本+応用」ぐらいしかOR用プログラムについての教科書は見当たらない。計算機はSUN 3/260が7台とSPARC STATION 330が4台、サーバーとしてあり、ハードディスクは4Gbytesで学生用にはSUN 3/50が30台ある。また、低学年用にFMR 60が65台あり、Ethernetを利用してXwindowが動くようになっている。今年中には、UNIXが動く汎用機が導入され、FDDIにより、4学部のはほぼすべての教官が電子メール等のネットワークが利用可能となる。また薬学には、分子構造解析用にStellaがネットワーク下にある。経営情報学部には、アポロDN10000を中心として、DN30005台が情報系教官に、SUN3/50が、NEC9800を必要としない人たちに設置されている。

この環境を利用して、浦先生の人工知能、計算機言語IIIが行なわれている。IIIでは、C言語とSUN-OSが中心であるが、K&Rの教科書等は計算機科学用にできていないため、K&Rの次にやるべきORに関するC言語の教育を目標としている。統計用言語Sをうまく利用できればいいが、学生が卒業後、Sを使える環境にいるかどうかは疑わしいので、講義の中心にはできない。

経営情報学部は、米国大学並みに人事の風通しがよく、静岡県立大学を日本一の大学にしようという意欲があり、われわれの誇るComputer Networksを利用したいと考える諸兄は、ぜひ uratani@u-Shizuoka-kenjunet に Mail をお願いしたい。(浦谷 規)